

コナガ情報（キャベツ）

**東三河地域では、発生量は多くはありませんが、多くのほ場で発生確認！
今後、発生に好適な条件が見込まれるので発生状況に注意！**

平成26年4月4日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 発生状況

(1) 秋冬キャベツでコナガの発生が多かった東三河地域で、5、6月収穫予定のキャベツにおけるコナガの発生状況を3月下旬に調査しました（全3地域、10ほ場/1地域、100株/1ほ場、見取り調査）。その結果、コナガ幼虫の食害や寄生が中心部の新葉で見られました（図1、図2）。



図1 コナガに食害されたキャベツ



図2 キャベツの新葉に寄生しているコナガ幼虫

(2) コナガ幼虫の発生ほ場率は、田原市西部70%、田原市東部50%、豊橋東部40%、東三河平均53%で、2月下旬（発生ほ場率46%、13ほ場調査）と同様に、多くのほ場で発生が確認されました（図3）。

(3) コナガ幼虫の平均寄生株率は、田原市西部4.8%、田原市東部3.6%、豊橋西部0.8%、東三河平均3.1%で、現在のところ2月下旬（平均寄生株率2.9%、13ほ場調査）に比べて発生が急増している状況ではありませんでした（図3）。しかし、田原市西部及び東部では、寄生株率11~20%と発生が多いほ場も見られました。

(4) 収穫終了間近のキャベツほ場において、成虫が多発しているほ場も見られ、今後、周辺ほ場への発生拡大が心配されます。

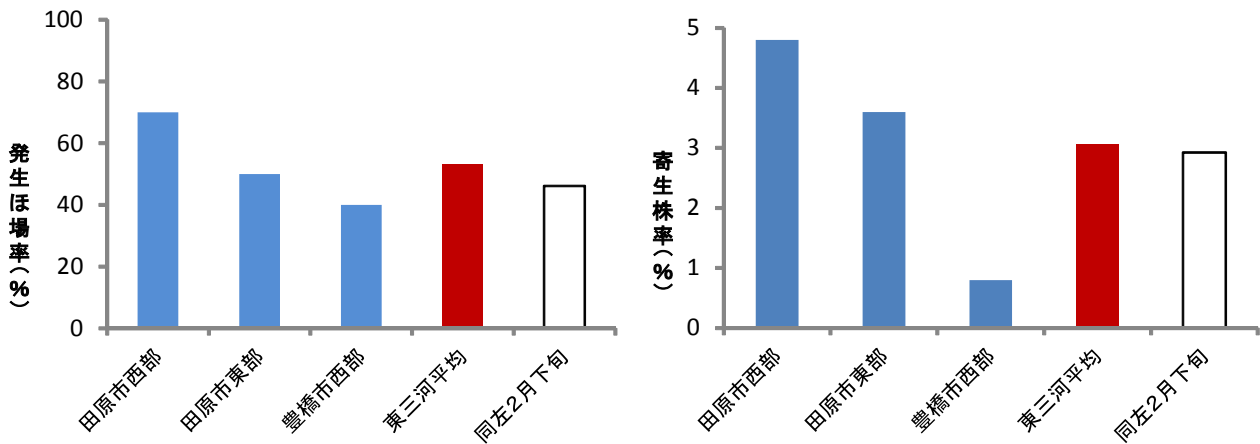


図3 3月下旬におけるコナガ発生ほ場率及び寄生株率（各地域10ほ場、100株/ほ場調査、3月下旬調査）

注1：田原市西部(小中山、中山、西山)、田原市東部(神戸)、豊橋市西部(城下、西赤沢、東赤沢、老津)

注2：2月下旬：平成26年2月下旬発生予察調査結果、調査ほ場数：東三河地域13ほ場

2 防除対策

- (1) 例年、気温の上昇とともに密度を高め、5、6月に発生ピークとなります。発生が見られる場合は、早めに防除しましょう。
- (2) コナガの発生が多いほ場は、周辺ほ場へのコナガの発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。
- (3) コナガは、世代交代が早く、薬剤抵抗性が発達しやすいので、表を参考に同一系統の薬剤を連用しないようにしましょう。
- (4) 東三河地域のほ場において、ジアミド系薬剤（フェニックス顆粒水和剤、プレバソンプロアブル5）のコナガに対する効果が低い事例が確認されています。これら薬剤の効果低下が疑われる場合は、表を参考に別系統の薬剤を使用しましょう。

表 コナガの主な防除薬剤

薬剤名	薬剤の系統
アフーム乳剤	マクロライド
スピノエース顆粒水和剤	スピノシン
ディアナSC	スピノシン
トルネードエースDF	オキサダイアジン
パダン水溶剤	ネライストキシシン
コテツフロアブル	ピロール
ハチハチ乳剤	フェノキシベンジルアミド
フローバックDF	BT
エスマルクDF	BT
ノーモルト乳剤	IGR（脱皮阻害）

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。